

### 3 一～五類全数把握感染症

#### (1) 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は報告がなかった。

#### (2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は報告がなかった。

#### (3) 三類感染症

##### ア 細菌性赤痢

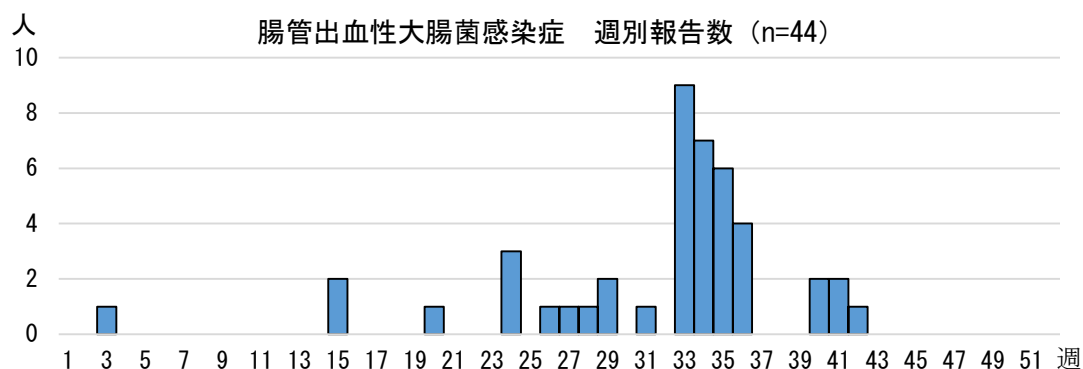
2017年は4例の報告があった。菌種は全て *sonnei* であった。性別は全て男性で、年齢階級別では30～39歳2人、40～49歳2人であった。

推定感染地は全て国内であった。うち同性間性的接触によると推定される感染例が3例報告された。

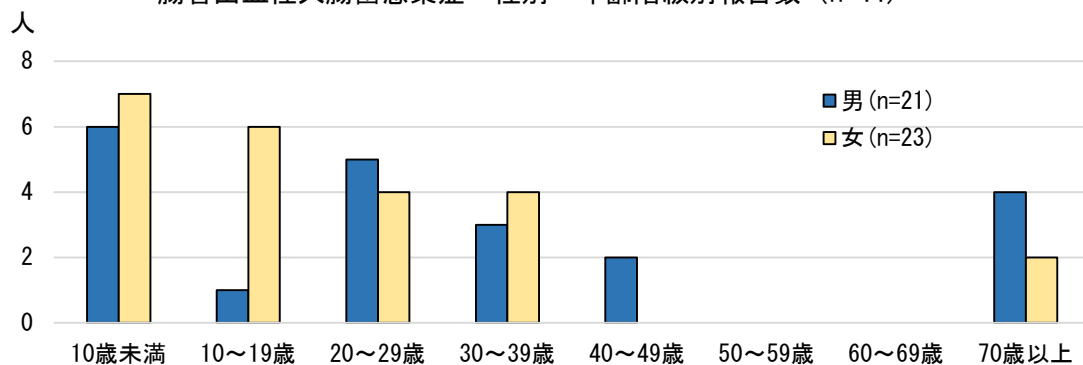
##### イ 腸管出血性大腸菌感染症

2017年は44例の報告があった。症状別では患者29人、無症状病原体保有者15人であった。報告は8月中旬から9月上旬にかけて増加した。性別は男性21人、女性23人で、年齢階級別では10歳未満13人（うち5歳未満7人）、10～19歳7人、20～29歳9人、30～39歳7人、40～49歳2人、70歳以上6人であった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が20件で最多であった。推定感染地は全て国内であった。

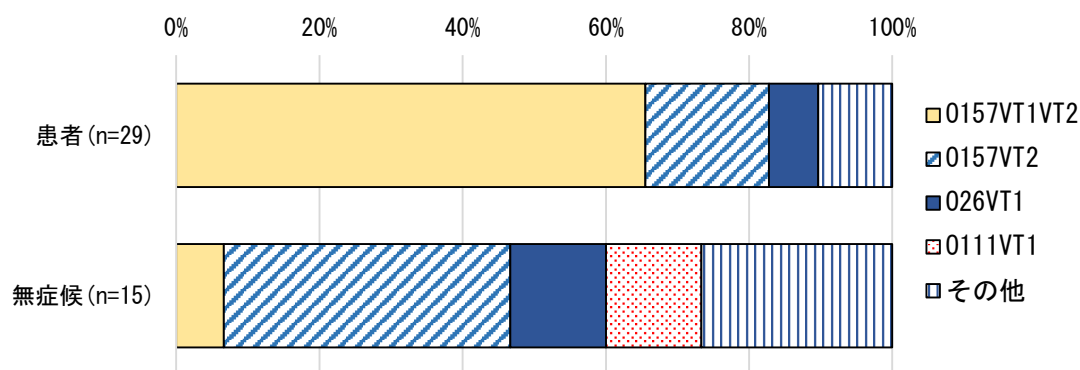
溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは2人であった。



腸管出血性大腸菌感染症 性別・年齢階級別報告数 (n=44)



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別構成割合 (n=44)



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=44)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O26	VT1	4	O128	VT1	1
O55	VT1	1	O157	VT1	1
O103	VT1	1		VT2	11
	不明	1		VT1VT2	20
O111	VT1	2	不明	VT1	1
O121	VT2	1			

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=2)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
6/15	男	10	O157 VT1・VT2	国内
8/26	男	82	O157 VT2	国内

#### ウ 腸チフス

2017 年は 2 例の報告があった。性別では男性 1 人、女性 1 人、年齢階級別では 20～29 歳 1 人、40～49 歳 1 人であった。推定感染地は全て国外であった。推定感染国はインド 1 人、パキスタン 1 人であった。

#### エ パラチフス

2017 年は 1 例の報告があった。性別は女性で、年齢階級は 40～49 歳であった。推定感染地は国外で、推定感染国はインドネシアであった。

#### オ その他の疾患

コレラは報告がなかった。

### (4) 四類感染症

#### ア E 型肝炎

2017 年は 6 例の報告があった。性別は男性 5 人、女性 1 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人であった。

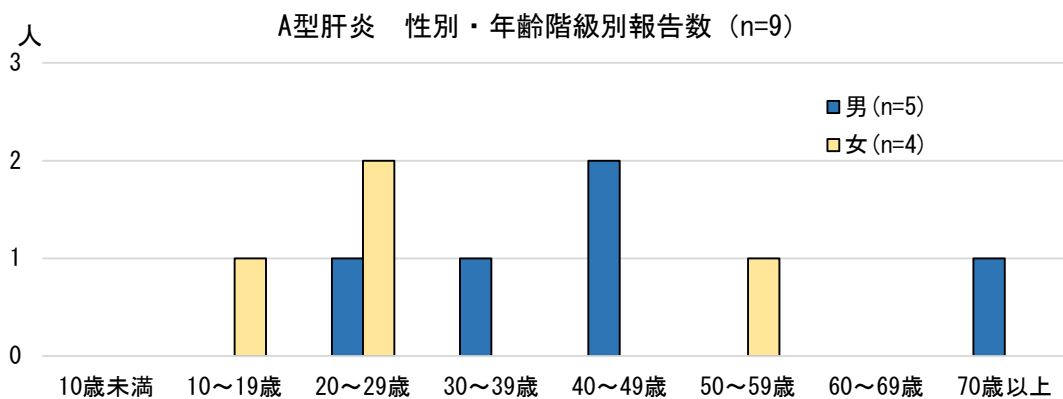
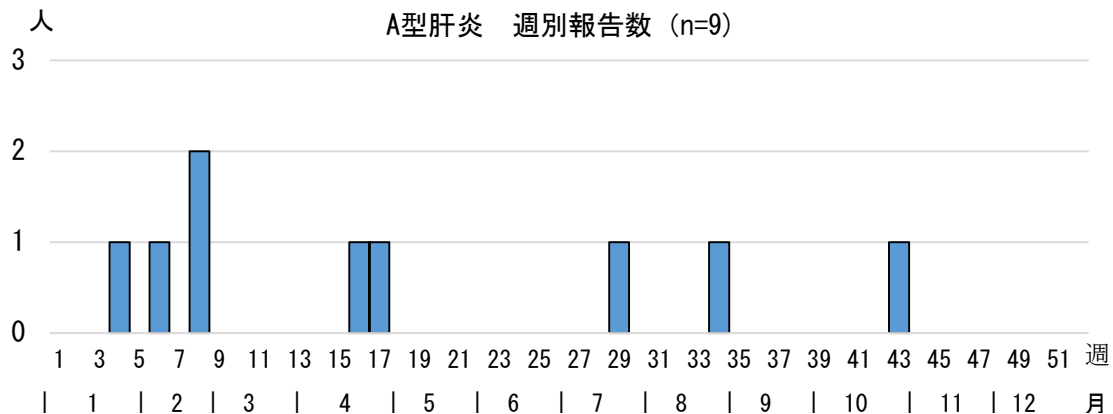
推定感染地は全て国内であった。推定感染経路は経口感染が 4 人、不明が 2 人で、経口感染のうち豚肉が 3 人（うち 1 人は猪肉も喫食）であった。

#### イ A 型肝炎

2017 年は 9 例の報告があった。性別は男性 5 人、女性 4 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、20～29 歳 3 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 6 人、国外 3 人であった。国外感染と推定された 3 人の推定感染国は米国 1 人、インド 1 人、フィリピン 1 人であった。

推定感染経路は、飲食物を介した経口感染 7 人、性的接触 1 人、不明 1 人であり、経口感染 7 人の推定原因食品は魚介類が 4 人（うち牡蠣 2 人）、寿司 1 人、生野菜 1 人、不明飲食物 1 人であった。



### ウ チクングニア熱

2017年は1例の報告があった。性別は女性で、年齢階級は10～19歳であった。推定感染地は国外で、推定感染国はインドネシアであった。

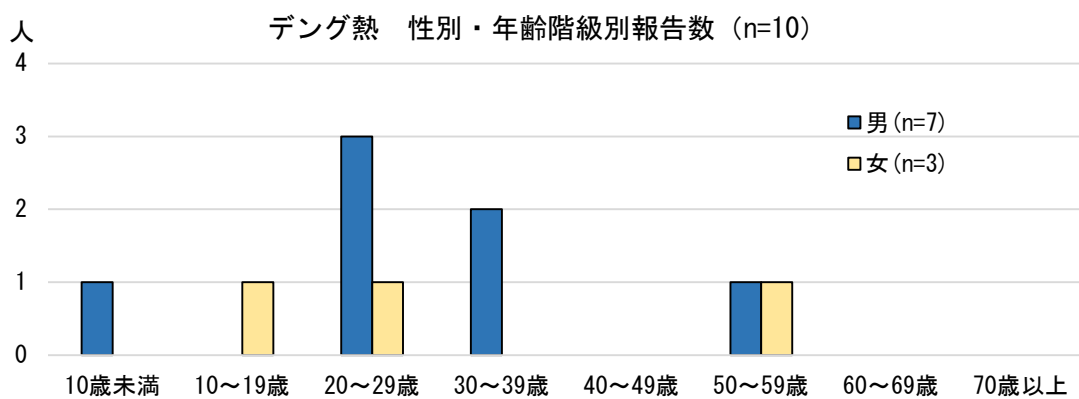
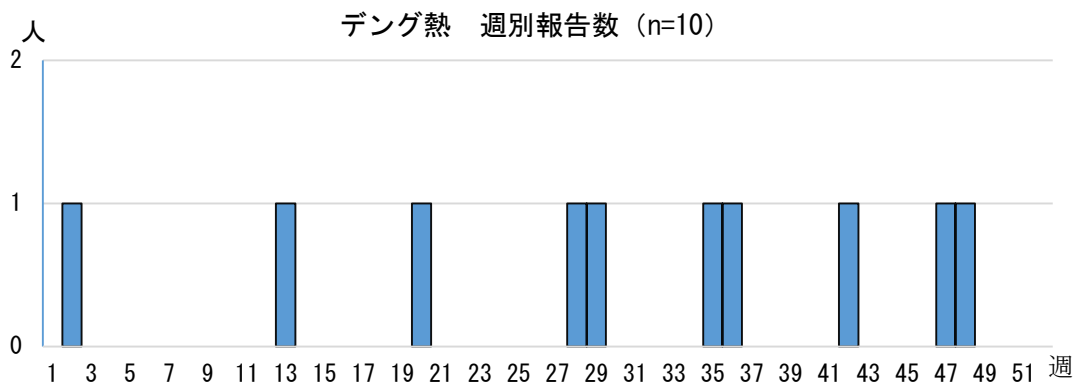
### エ つつが虫病

2017年は1例の報告があった。性別は女性で、年齢階級は60～69歳であった。推定感染地は国内で、島根県であった。

### オ デング熱

2017年は10例の報告があった。性別は男性7人、女性3人、年齢階級別は10歳未満1人、10～19歳1人、20～29歳4人、30～39歳2人、50～59歳2人であった。血清型の内訳は1型4件、2型3件、3型2件、4型1件であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域別は、東南アジア8人、南アジア2人で、推定感染国はスリランカ、ベトナム、ミャンマーが各2人、インド、カンボジア、フィリピン、モルディブが各1人であった。



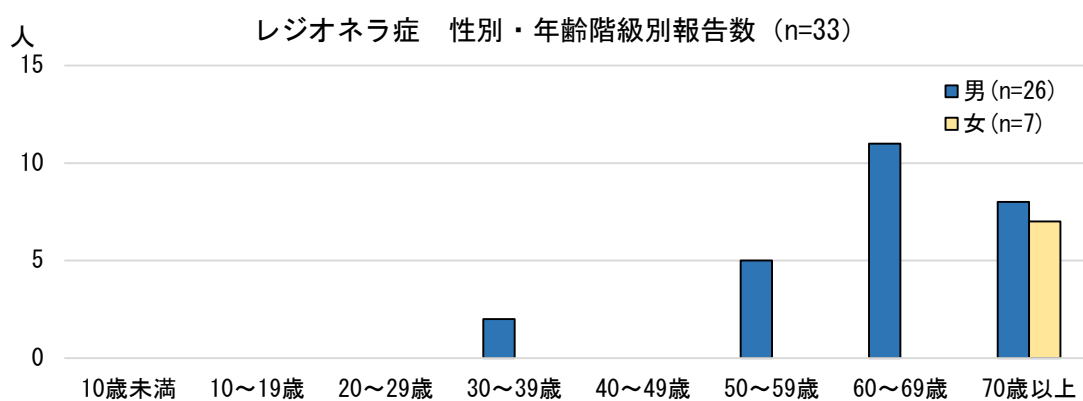
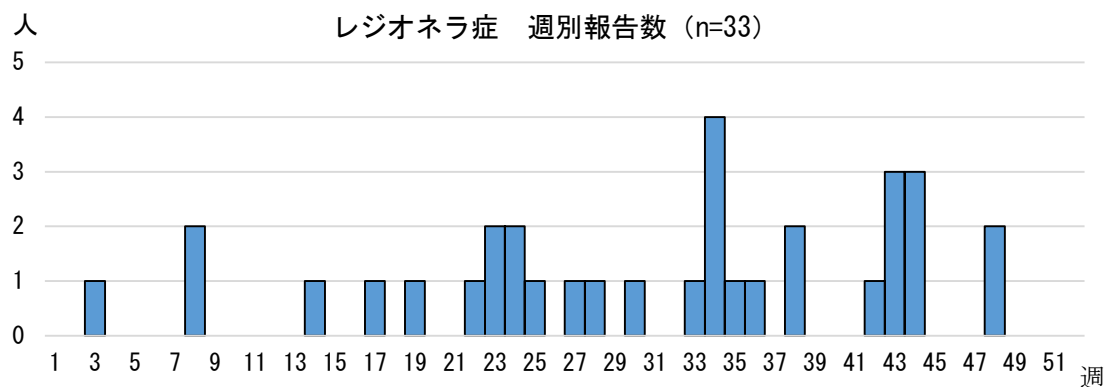
### カ マラリア

2017年は1例の報告があった。性別は男性で、年齢階級別は40～49歳であった。推定感染地は国外で、推定感染国はマラウイであった。

### キ レジオネラ症

2017年は33例の報告があった。病型は肺炎型31人、ポンティアック熱型2人であった。性別は男性26人、女性7人、年齢階級別は30～39歳2人、50～59歳5人、60～69歳11人、70歳以上15人であった。

推定感染地は国内32人、国外1人で、国外感染例の推定感染国は韓国であった。推定感染経路は水系感染16人、塵埃感染1人、不明16人であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは12人であった。



#### ク その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

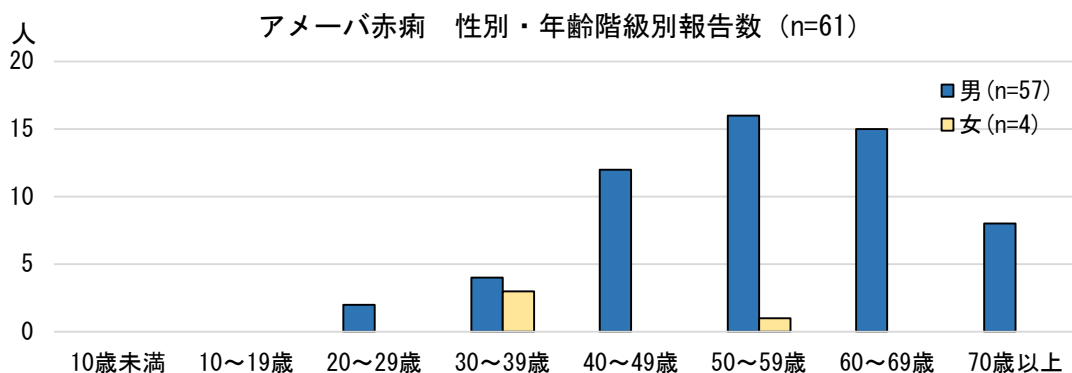
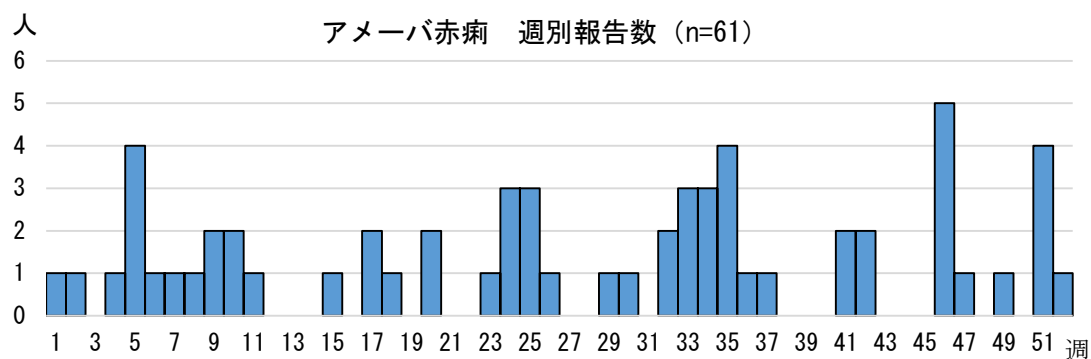
#### (5)五類感染症(全数把握対象)

##### ア アメーバ赤痢

2017年は61例の報告があった。腸管アメーバ症52人、腸管外アメーバ症8人、腸管及び腸管外アメーバ症1人であった。性別は男性57人、女性4人で、年齢階級別では20～29歳2人、30～39歳7人、40～49歳12人、50～59歳17人、60～69歳15人、70歳以上8人であった。

推定感染地は国内 53 人、国外 2 人、国内又は国外 6 人であり、国外感染例 2 人の推定感染国は台湾、タイ又は中国又はマレーシアが各 1 人であった。

推定感染経路は、性的接触 27 人（同性間 12 人、異性間 11 人、性別不明 4 人）、飲食物による経口感染 10 人、不明 2 人であった。



#### イ ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)

2017 年は 7 例の報告があった。全て B 型肝炎であった。性別は男性 4 人、女性 3 人で、年齢階級別では 20~29 歳 1 人、30~39 歳 4 人、50~59 歳 1 人、60~69 歳 1 人であった。

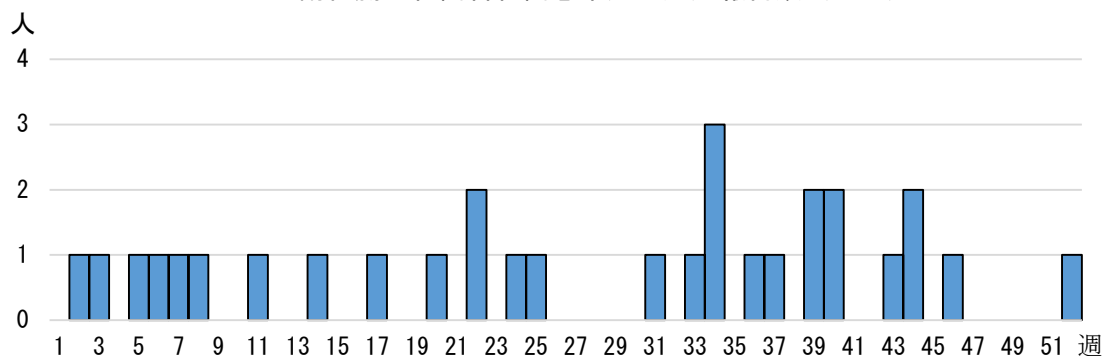
推定感染地は全て国内で、推定感染経路は性的接触 6 人（同性間、異性間各 3 人）、不明 1 人であった。

#### ウ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

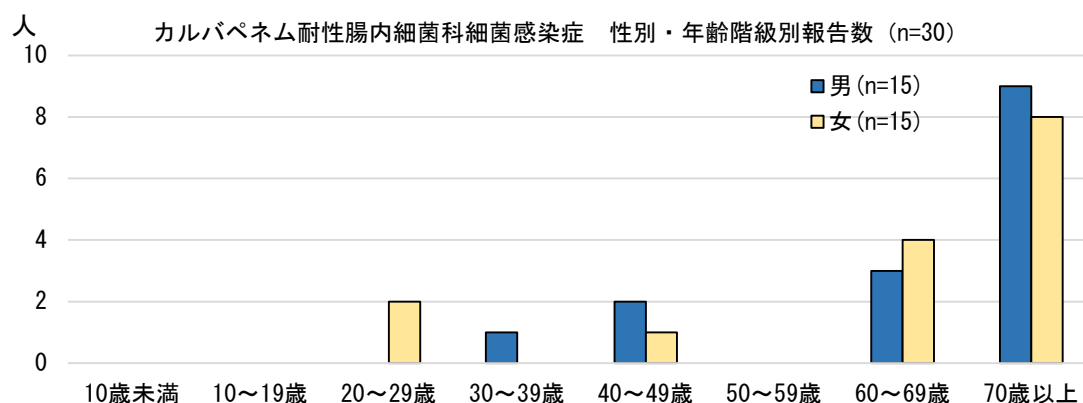
2017 年は 30 例の報告があった。性別は男性 15 人、女性 15 人で、年齢階級別では 20~29 歳 2 人、30~39 歳 1 人、40~49 歳 3 人、60~69 歳 7 人、70 歳以上 17 人であった。推定感染地は全て国内であった。

分離された菌種のうち *Klebsiella pneumoniae* が 8 件、*Enterobacter cloacae* が 7 件、*Escherichia coli* が 6 件、*Enterobacter aerogenes* が 4 件、*Serratia marcescens* が 2 件、*Citrobacter freundii*、*Citrobacter koseri*、*Proteus mirabilis* が各 1 件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 週別報告数 (n=30)



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 性別・年齢階級別報告数 (n=30)



**エ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)**

2017年は6例の報告があった。性別は男性3人、女性3人で、年齢階級別では10歳未満2人(いずれも5歳未満)、20～29歳1人、30～39歳1人、60～69歳2人であった。

推定感染地は全て国内で、病原体は全て不明であった。

**オ クリプトスポリジウム症**

2017年は2例の報告があった。性別は全て男性で、年齢はすべて60～69歳1人、70歳以上1人であった。

推定感染地は全て国内であった。推定感染経路はいずれも性的接触(同性間)であった。

**カ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)**

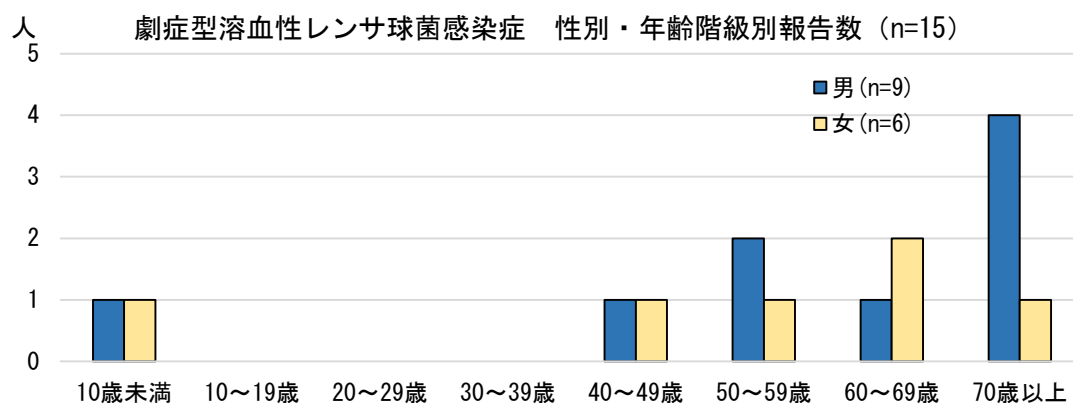
2017年は1例の報告があった。孤発性プリオン病(ほぼ確実)であり、古典型CJDであった。性別は男性で、年齢階級は70歳以上であった。進行性認知症が認められたほか、小脳症状、視覚異常が認められた。



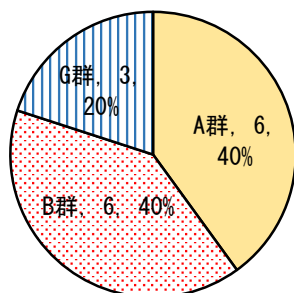
### キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2017年は15例の報告があった。性別は男性9人、女性6人で、年齢階級別では10歳未満2人（いずれも5歳未満）、40～49歳2人、50～59歳3人、60～69歳3人、70歳以上5人であった。

推定感染地は国内13人、国内又は国外2人で、推定感染経路は創傷感染7人、経口感染2人、接触感染1人、不明5人であった。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別割合 (n=15)



## ク 後天性免疫不全症候群

2017年は133例の報告があり、AIDS患者33人、HIV感染者100人（指標疾患以外の有症者14人、無症候性キャリア86人）であった。

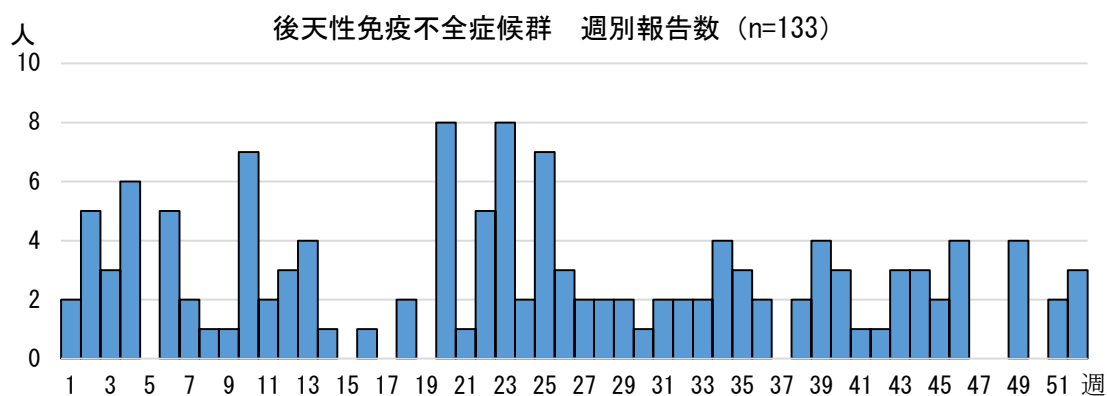
AIDS患者33人の内訳は男性32人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳3人、30～39歳9人、40～49歳14人、50～59歳5人、60～69歳1人、70歳以上1人であった。

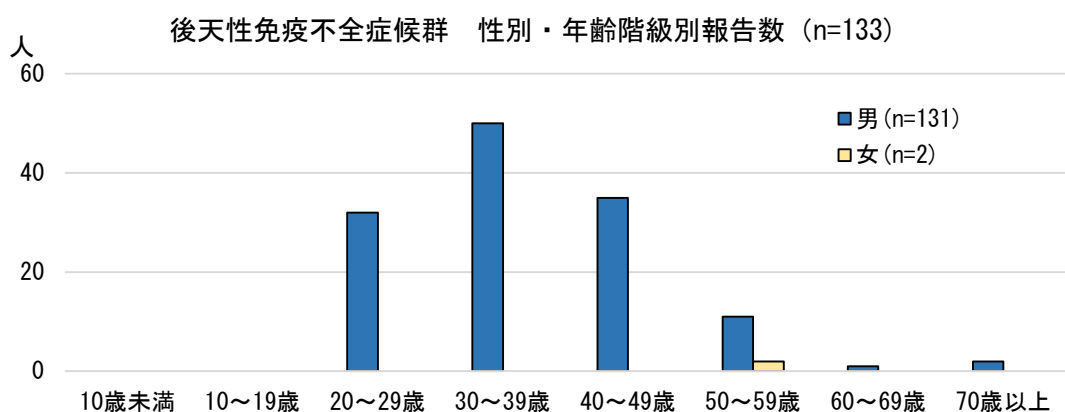
HIV感染者のうち指標疾患以外の有症者の14人のうち男性は13人、女性は1人で、年齢階級別では20～29歳3人、30～39歳6人、40～49歳4人、50～59歳1人であった。

HIV感染者のうち無症候性キャリアの86人は全て男性で、年齢階級別では20～29歳26人、30～39歳35人、40～49歳17人、50～59歳7人、70歳以上1人であった。

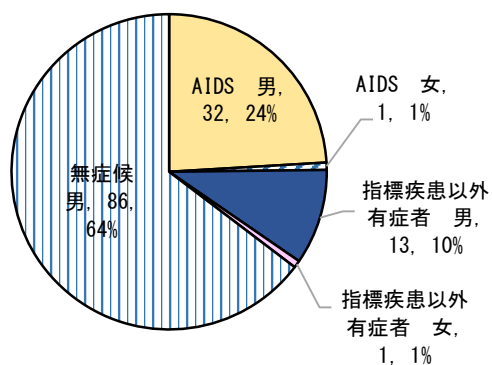
推定感染地は国内112人、国外8人、国内又は国外4人、不明9人であった。国外感染例8人の推定感染地域別は、東南アジア3人、東アジア3人、オセアニア1人、2地域以上1人であった。推定感染国別に見ると、中国3人、インドネシア、マレーシア、ニュージーランド、フィリピン又はタイ、中国又はタイが各1人であった。

推定感染経路は性的接触118人（同性間106人、異性間8人、両性間2人、不明2人）、2経路以上3人（すべて同性間性的接触又は静注薬物使用）、不明12人であった。

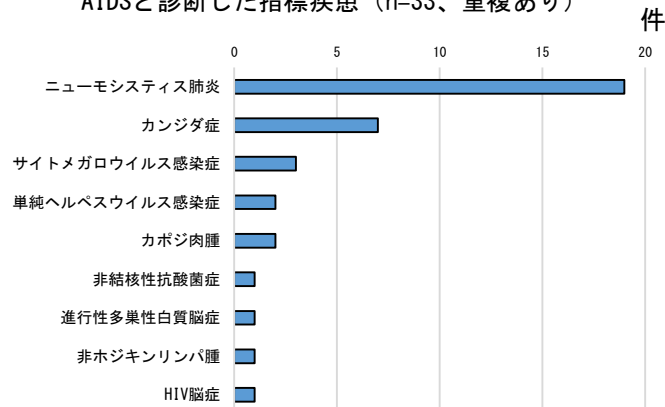




後天性免疫不全症候群 性別届出割合 (n=133)



AIDSと診断した指標疾患 (n=33、重複あり)



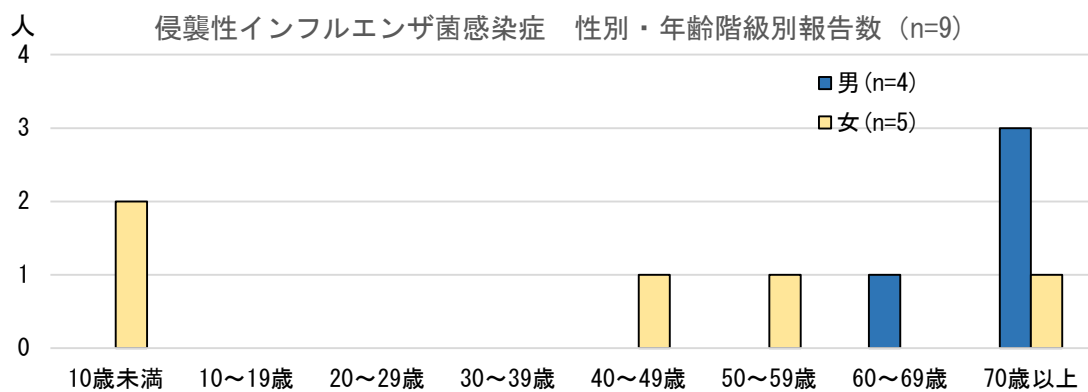
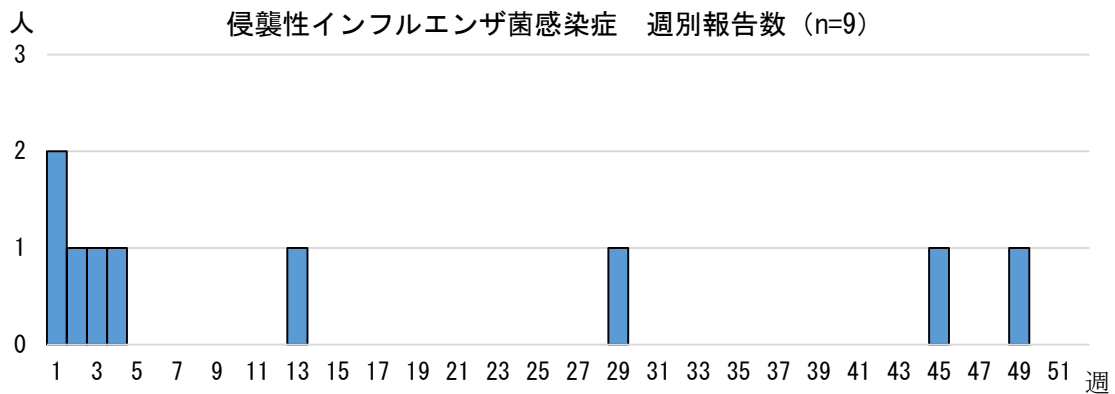
### ケ ジアルジア症

2017年は1例の報告があった。性別は男性で、年齢階級では30～39歳であった。推定感染地は国外で、ネパールであった。推定感染経路は経口感染であった。

### コ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2017年は9例の報告があった。性別は男性4人、女性5人で、年齢階級別では10歳未満2人（いずれも5歳未満）、40～49歳1人、50～59歳1人、60～69歳1人、70歳以上4人であった。

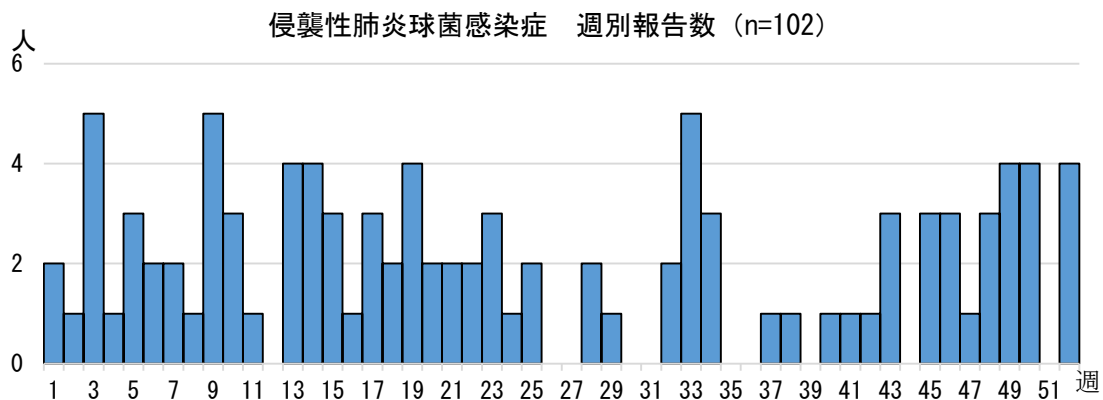
推定感染地は全て国内であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、不明7人であった。Hib ワクチン接種歴は4回接種が2人、接種なし2人、不明5人であった。

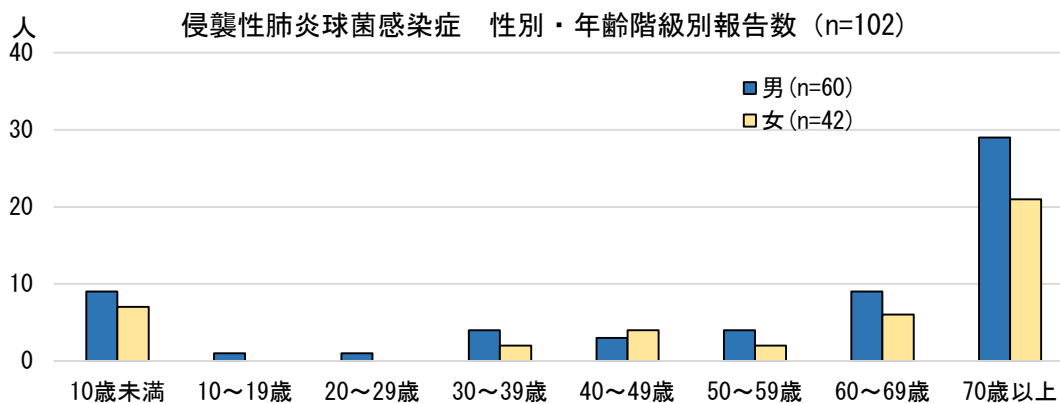


### サ 侵襲性肺炎球菌感染症

2017年は102人の報告があった。性別は男性60人、女性42人であった。年齢階級別では10歳未満16人（うち5歳未満13人）、10~19歳1人、20~29歳1人、30~39歳6人、40~49歳7人、50~59歳6人、60~69歳15人、70歳以上50人であった。

推定感染地は国内95人、国外1人（マレーシア）、国内又は国外6人であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染35人、接触感染3人、不明64人であった。ワクチン接種歴は4回接種11人、3回接種2人、1回接種8人、なし46人、不明35人であった。





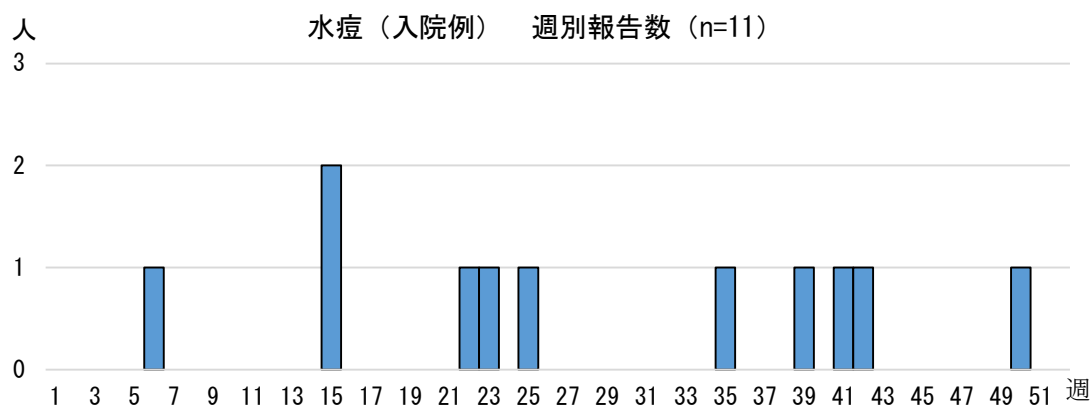
年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=102)

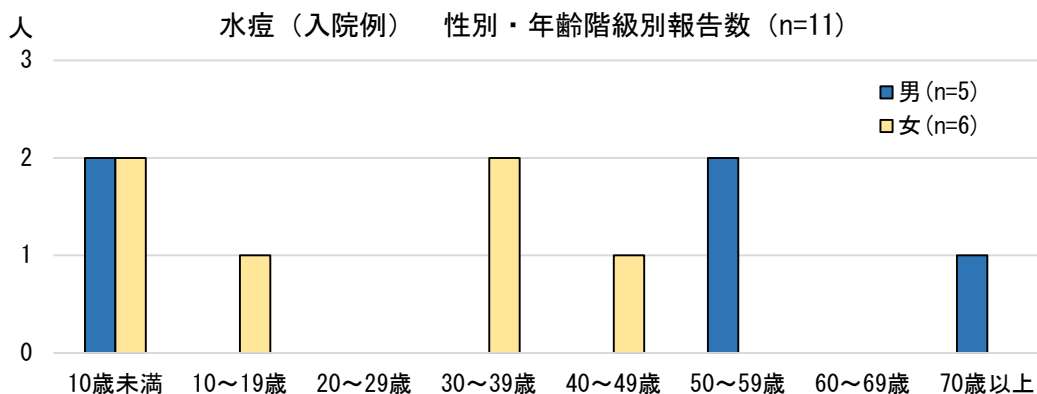
	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	なし	不明	合計
5歳未満	9	2		1		1	13
5~9歳	2				1		3
10~64歳				1	15	10	26
65歳以上				6	30	24	60
合計	11	2	0	8	46	35	102

### シ 水痘(入院例)

2017年は11例の報告があった。性別は男性5人、女性6人で、年齢階級別では10歳未満4人、10~19歳1人、30~39歳2人、40~49歳1人、50~59歳2人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染3人、接触感染1人、院内感染1人、不明6人であった。ワクチン接種歴はなし8人、不明3人であった。



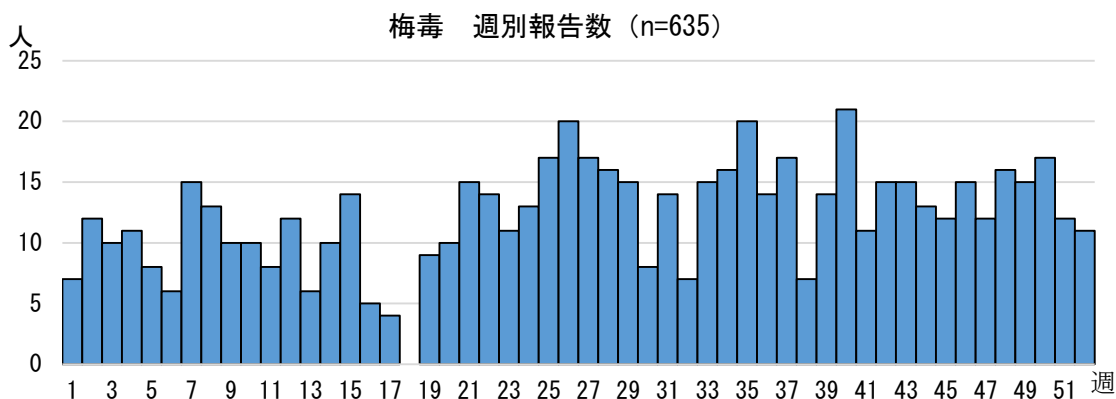


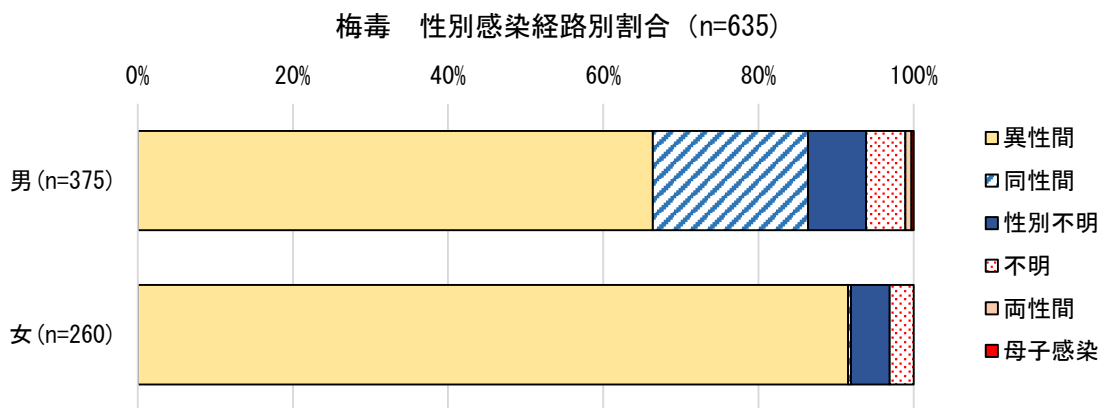
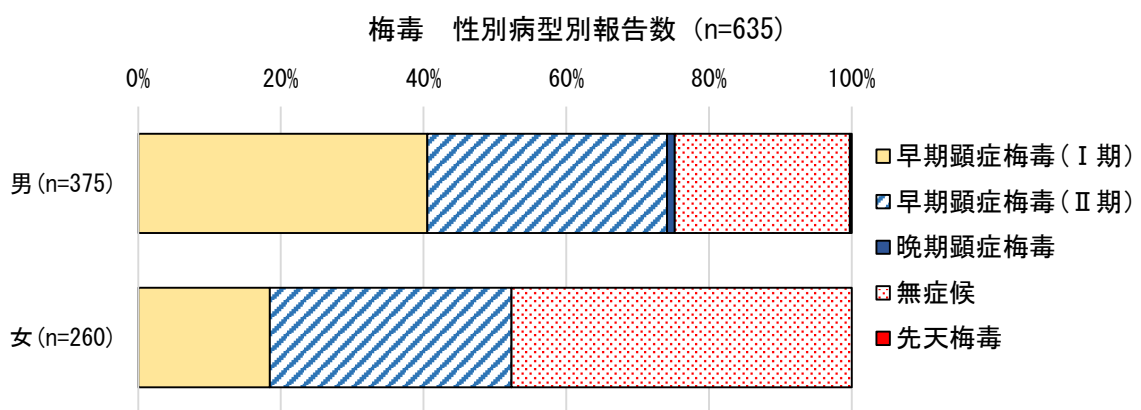
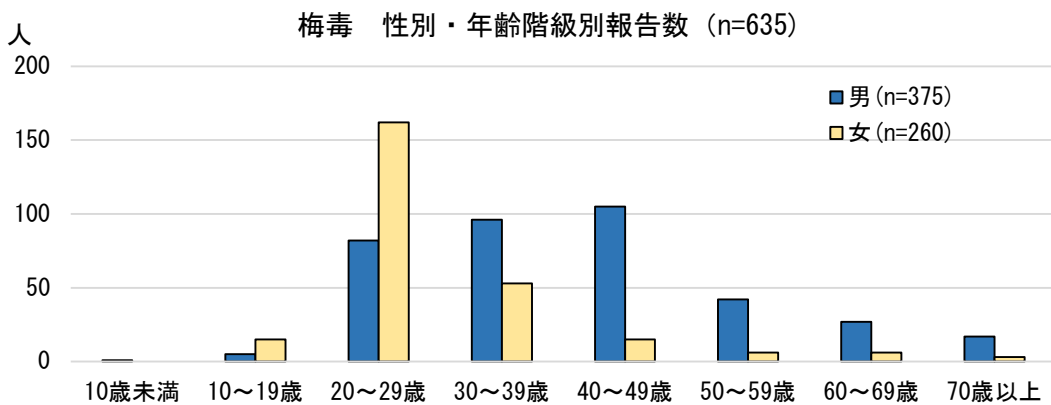
## ス 梅毒

2017年は635例の報告があり、1999年以来最多となった。早期顕症梅毒Ⅰ期200人、早期顕症梅毒Ⅱ期214人、晩期顕症梅毒4人、無症候216人、先天梅毒1人であった。性別は男性375人、女性260人であった。年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳20人、20～29歳244人、30～39歳149人、40～49歳120人、50～59歳49人、60～69歳33人、70歳以上20人で、20～59歳の男性が325人で全感染者の51.2%を占めた。一方、20～29歳では、244人のうち女性が162人で66.4%を占めた。

推定感染地は国内629人、国外4人、国内又は国外2人であり、国外感染例4人の推定感染国は、韓国、中国、メキシコが各1人、不明が1人であった。

推定感染経路は性的接触607人（同性間76人、異性間487人、両性間3人、性別不明41人）、母子感染1人、不明27人であった。





## セ 播種性クリプトコックス症

2017年は2例の報告があった。性別は全て女性で、年齢階級別では60～69歳1人、70歳以上1人であった。推定感染地は全て国内であった。推定感染経路は鳥類の糞などの接触1人、不明1人であった。

## ソ 破傷風

2017 年は 5 例の報告があった。性別は男性 1 人、女性 4 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、40～49 歳 1 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 2 人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染経路は創傷感染 3 人、不明 2 人であった。

破傷風含有ワクチン接種歴は 4 回接種が 1 人、有り（回数不明）が 1 人、不明が 3 人であった。

## タ バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)感染症

2017 年は 5 例の報告があった。性別は男性 3 人、女性 2 人、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、70 歳以上 4 人であった。

菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子は *vanA* が 4 人、不明 1 人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は接触感染 2 人、不明 3 人であった。

## チ 風しん

2017 年は 6 例の報告があった。検査診断例 5 人（うち PCR 陽性例は 2 例）、臨床診断例 1 人であった。性別は男性 5 人、女性 1 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 1 人であった。

推定感染地は国内 3 人、国外 3 人であった。国外感染例 3 人の推定感染国はフィリピン 2 人、タイ 1 人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、2 回接種 1 人、1 回接種 1 人、不明 4 人であった。

## ツ 麻しん

2017 年は 1 例の報告があった。検査診断例であった。性別は女性で、年齢階級は 20～29 歳であった。推定感染地は国内であった。麻しん含有ワクチン接種歴は 2 回接種であった。

## テ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

侵襲性髄膜炎菌感染症、先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症